E 16

ビデオによる台所作業の考察
― シンク形式による作業領域について ―

大阪市大生活科学　　北浦かほる

<はじめに>　システムキッチンの普及とともにシンク形式も多様にデザインされるようになってきた。しかし、その形式別特性や機能寸法などシンクまわりの作業領域について、現状の食生活を踏まえた研究は少ない。そこで本研究では家庭におけるシンク周辺の作業行為をビデオで収録することによって詳細に把握し、シンク形式による作業機能領域の差を検討すると共に、シンクまわりの計画の基礎資料を得たい。

<ビデオ撮影の方法と対象家庭>　５種（ｼﾝｸﾞﾙ・ﾀﾞﾌﾞﾙ・ｼﾞｬﾝﾎﾞ・75cmﾜｲﾄﾞ・食洗機）のシンク形式別に各２件づつ計１０件のサンプル家庭を抽出し、1991年7/31～11/2日の間に各３日間づつシンクまわりを中心に録画した。録画画面からデータを採取した。

<シンク形式別作業行為内容とその頻度分布>　シンク形式別に１日の作業時間を求めた。また作業行為を「洗浄」「調理」「その他」に分け、各サンプル毎に夕食準備から後片づけ終了までの全作業時間に対する３行為の作業台面の占有時間の割合を示す頻度分布図を作成した。水切り板は固定して使われており、シンク形式別特徴はみられなかった。

<注水点を中心とした洗浄機能領域>　洗浄を行なう際に水の落ちる点「注水点」を求め、人の作業位置を合わせて、５０％以上の使用頻度の高い領域を求めた。高使用頻度の領域は注水点を中心に左右に計Ｗ＝３３cm、奥行き方向にＤ＝２４cmの範囲に集中する。

<まな板でみる調理機能領域>　調理行為の場所はまな板の位置で表わされ①１部がシンク内に②全部をシンク内に③シンク上に渡す、に分かれる。またシンク外周辺にみられる調理機能は作業方向か反作業方向かによって領域の使用頻度に大きな差が見られる。